

土岐商だより



TOPIC

- 卒業する諸君へ
- 平成21年度卒業証書授与式
- 卒業生の進路
- 土岐商業高校での3年間と進路
- 3月の行事予定

卒業する諸君へ

学校長 服部 哲明

卒業おめでとう。と同時に実社会へすぐに出て行く卒業生は、一日も早く社会人として生活に慣れてほしい。また、大学等に進学する卒業生は、くれぐれも目的を持って貴重な時間と経費を無駄にしないようにしてください。君達の待ち受けている日本社会は、必ずしも前途洋々とは言いがたいほどいろいろな課題を持っています。これは、どこの国に住んでいても同じような、いやそれ以上の課題を抱えています。その課題とは何かと言いますと、日本の国家財政が逼迫（ひっばく）していること（赤字国債大量依存）、少子高齢化の波が大きく寄せられていること（実生産人口が減少）、枯渇性エネルギー（輸入依存）であることなど様々な課題が山積みしている実社会に出ることになるわけです。これらの課題は、国家レベルの課題であり、諸君が政治家を志せば是非とも解決してもらいたい課題であります。

さて、本校の卒業生は、商業高校で学んだ知識を応用して実社会に進むケースが多い。そのため、これまでの私の話は経済界における情報をあらゆる場を通して発信してきました。しかし、はっきり話をしていなかったことがあります。それは、①「親方日の丸的な発想は、経営危機を招く」ということ。また、②「お金さえ儲かればどんな手段を講じても良いという考えは持たないように」ということ。①については、去年の10月に北海道の出張で感じたことです。ちょうどその時は台風が本州に上陸し、進路を北へ北へとつてきました。会議を途中で打ち切り本州に戻ろうと決意した朝7時に空港に出向いた所、全日空は、担当がすでに来ていて搭乗手続きをしてくれました。一方日本航空の方は、いつも9時近くしか担当がこないのでできないとの空港関係者の話でした。経営危機の話はこのころ既に耳にしていますが、台風が接近してきて搭乗変更が多く発生すると予想されても対応しない親方日の丸体質(公的なもの)が今日の結果を呼んだと思われます。これは、政府に保護されている企業に留まらず大企業にもいえることです。滴が集まって大河をなすようにお客様にとって不満（例：滴）が集まると企業離れ(例：大河)につながると思います。これは、我々教師も同じです。生徒は黙っていても毎日学校に来ます。どんな授業、指導をしても生徒は学校に来ます。しかし、私学や私塾はそうはいきません。ここに親方日の丸的な驕りがいないか一人一人襟を正さねばなりません。行政も同じです。聞かないふりをしたり、新しいことに目を向けない、むしろ新しい動きを嫌います。なぜなら、定型パターンで仕事をするほど楽なことではないからです。何をしても最低限さえクリアすれば固定給はもらえますし、つぶれることはないとう親方日の丸的な発想があるからです。②については、昨年度事故米が流通し、低コストで仕入れた事故米を食料米として流通させ暴利を得た企業が糾弾され、結局は破綻したということがありました。これなどは、企業の社会的責任（CSR）を果たすことなく儲け主義に走り、墓穴を掘った例ですが、常に利害関係者（ステークホルダー）に対して企業の社会的責任を負うというスタンスで対処してもらいたいと思います。

卒業生諸君がそれぞれの道に進み、身の丈にあった居場所を見つけ活躍してくれることを祈りますとともに母校土岐商業高校をいつまでも気にかけて、支援してください。

平成21年度 第55回卒業証書授与式

平成21年度第55回卒業証書授与式ではビジネス情報科 78名 ビジネス科 157名に卒業証書が学校長より総代に渡され、無事に終了しました。答辞は前生徒会長の柴田明里さんが3年間の思いを述べました。また卒業生から卒業記念品の贈呈が行われ、体育館の椅子が贈られました。また12カ年皆勤者の6名の生徒が育友会の松浦会長から特別表彰をうけました。



卒業生の進路

進学：

四年制大学

国公立：金沢大、滋賀大（2）、名古屋市立大

私立：慶応大、中央大、日本大（3）、法政大、明治大、岐阜聖徳大、中京学院大（2）、中部学院大（3）、愛知学院大（11）、愛知工業大（4）、愛知淑徳大（3）、愛知大学（13）、至学館大、中京大（7）、中部大（1）、東海学園大（2）名古屋外国語大、名古屋学院大（2）、名古屋芸術大、名古屋商科大（8）、南山大、日本赤十字豊田看護大、名城大（9）、京都産業大、同志社大、立命館大

短大：中京短大（2）、中部学院大短大（2）、東海学院大短大、愛知学院大短大（2）、名古屋学芸大短大、名古屋経営短大（3）、名古屋女子大短大（2）、名古屋柳城短大（2）、名古屋短大（3）

看護・医療専門学校：JA厚生連看護、あじさい看護（2）、下呂看護（2）、岡波看護、国際医療技術、中和医療、トライデントスポーツ医療看護、ナゴノ福祉歯科医療、名古屋医専（3）、平成医療（2）、米田柔整

専門学校：北海道職業能力開発大学校、愛知文化服装、あいちビジネス（6）、愛知調理、青山製図、

大原トラベルホテルプライダル、国際医療管理、国際製菓技術、国際調理師、中日美容（5）、辻製菓、東海福祉総合、東京IT会計（名古屋校）（5）、東京法律（名古屋校）（6）、トライデントコンピュータ、トライデントスポーツ医療看護、トライデントビューティプライダル、中日本航空、名古屋医療経営福祉、名古屋外語、名古屋観光（2）、名古屋コミュニケーションアート（7）、名古屋情報メディア（2）、名古屋デザイナー学院、名古屋ビジュアルアーツ、名古屋美容、名古屋リゾート&スポーツ（3）、タナベエンターテイメントカレッジ

就職

ケーブルシステム建設(株)、アダプトゲン製菓(株)、ジャパンセラミックス(株)、シンクレイヤ(株)、トヨタ自動車(株)（2）、リンナイ（株）、伊原電気工業(株)、(株)TYK、(株)ウイセラ、(株)ジーシーデンタルプロダクツ(株)デンソー（2）、(株)愛工機器製作所、兼工業(株)、東海化成工業(株)、美濃窯業(株)、函平段ボール(株)、イワトー(株)（4）、エスケーアイ(株)、ジャペル(株)、ガイドー(株)、ナフコ(株)トミダ、(株)サンゲツ（2）、(株)ニッカ、(株)義津屋、(株)恵那川上屋（2）、(株)名神、上新電機（株）、八木兵(株)、林八百吉(株)、めぐみの農業協同組合、(株)平成観光、亀谷歯科医院、佐々木歯科医院、春日井開発(株)、陶都信用農業協同組合、馬喰一代、東海旅客鉄道(株)（5）、東京急行電鉄(株)、東濃鉄道(株)（2）、名古屋鉄道(株)、名鉄観光バス(株)、十六ビジネスサービス(株)、東海東京証券（2）、東濃信用金庫、関西電力（株）、中部電力(株)岐阜支店、土岐市消防、岐阜県警察、愛知県警察

3月の行事予定

日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事
1	月	卒業証書授与式	11	木	一般入試	21	日	春分の日
2	火	学年末考査	12	金		22	月	振替休日
3	水		13	土		23	火	
4	木		14	日		24	水	終業式・離任式
5	金	↓	15	月		25	木	
6	土		16	火		26	金	
7	日		17	水	合格発表、合格者説明会	27	土	
8	月	1・2限テスト返し、3限書いて考える進路	18	木		28	日	
9	火	1限テスト返し、2限大掃除	19	金		29	月	
10	水		20	土		30	火	
						31	水	

岐阜県立 土岐商業高等学校

岐阜県土岐市土岐津町
土岐口1259-1

電話 0572(54)1291
Fax 0572(55)6904

Email
C27330@gifu-net.ed.jp
URL
[http://school.gifu-net.ed.jp/
toki-chs/](http://school.gifu-net.ed.jp/toki-chs/)



『土岐商業高校での3年間と進路について』

3年 今井 浩平

私の土岐商業高校での3年間は「成長」の二文字に尽きる。よく勝利の方程式だとかを耳にするが、ここで体験をもとに私なりの『成長の方程式』を思索してみようと思う。

私が良き成長を遂げた過程として主に次の三つが挙げられると考える。

一つは部活動だ。私は硬式野球部に所属していたが、ここで「自己の欠点の客観的な模索とその他人からの補強」を体得できた。私は捕手から外野手に転向したため、技術は他の外野手より劣っており、技術向上が急務であった。そこで自分の改善すべき点の模索、部員の動きの観察・分析、試行錯誤を積み重ねた。高校野球という争いの中で自ずと自分に吸収することができた。しかしこれは野球のみに通ずるものではなく、勉強、その他のスポーツ、趣味など全てに精通する。自分に妥協し、自己満足で片付けることも可能だっただろうが、自分の欠点を素直に受け止め、補う努力を積むことは大きな成長の糧となった。厳しい練習の中で得た一つの有意義な財産だ。

二つ目は「日本の次世代リーダー養成塾」への参加だ。私はここで「学ぶこと」の本質を追究できた。「学ぶこと」とは、未だ触れたことのない知識・経験を心で受け止め、持論と比較し敷衍することであり、そのために「勉強」しなければならない。また、この養成塾で得たものを今もなお鮮明に記憶しているのは、心で受け止めることの深甚な意義の表れではないか。また、持論の確固たる自信の確立と軌道の修正を図ることができた。ここでの全ての経験は知恵へと昇華できるほど多大な影響を与えてくれた。更に、幾度となく重ねたディスカッションやディベート、講義などにより、人の発言の迅速な要約・要旨の把握と自己主張の論理的伝達、リーダーの素質としての先見性や文化理解、フォロアシップなど汎用性に富んだ力を育むことができた。

三つ目は土岐商ショップでの活動だ。私は初代生徒代表取締役を務めさせて頂き、地域活性化を理念に掲げ、より良い活動の展開のため注力してきた。実店舗販売では、昨年度まで育友会より全額借り入れていた運営費を全校による出資によって充てることで、土岐商業全体としての団結を実現できた。また、全国初の高校生による産学官連携を図ったネットモール運営に漕ぎ着くことができた。この過程では、市政を握る市長・生計をかけた商店主と真剣に向き合ったり、多くの批判にもまれたりといった貴重かつ過酷な体験を重ねてきた。実社会に身を投じることで、言葉に具現化できないが実感のある、非常に有意義な心身の進歩を感じた。土岐市陶磁器卸商業協同組合専務の協力を得るに至り、今後の土岐商業によるネットモール運営という大きな礎を築く目処が立った時の喜びは今でも鮮明に脳裏に蘇ってくる。

以上の三つを経て今の私がある。この過程では自分の意志・判断の意執、能力の研鑽、目途への執着をいかに高く維持できるかを常に念頭に置いてきた。この意識によって私は良き成長を遂げることができたと考え。これにより私は、主体性と探究心の二つの要素は欠くことができないのだと知ることができた。もちろん、こうした多くの経験は、多くの方々との出会いと様々な支援によって得ることができた。私の身勝手な要望を寛大な心で賛助してくれた仲間や、共に切磋琢磨してきたライバル、休日を削り私たちにご指導して下さいました先生方。この土岐商業高校で出会った人は皆、共に一喜一憂して下さり、私の大きな原動力となった。そして、ここで出会ったのがそんな彼らだったからこそ、リーダー養成塾に参加でき、また代表取締役として全力を傾倒することができた。感謝の念を忘れず、ここで築くことができた財産をこれからも大切に生きていこうと思う。

一通り振り返ってみたが、ここで私なりの『成長の方程式』を見出すことができた。それは、『成長＝(主体性×探究心) ^{出会い}』だ。自分の内なる主体性と探究心を高め、良き出会いと巡り逢うことで、他人から良き動力を得られれば、至高の成長を実現できる。私は進学先が同志社大学商学部が決まった。これからはいかに主体的に、いかに探究心を持って学ぶかで懸絶した成長を遂げられるか否かが決まる。時間は点ではなく帯で流れている。したがって、一時の緩怠が未来を頓挫しかねない。常にこの方程式と人への感謝を念頭に置き、良き出会いを生み出していくことで、4年後良心を手腕に運用し、社会に貢献できるビジネスリーダーとして巣立てるよう奮励していきたい。

『土岐商業高校での3年間と進路について』

3年 長谷部 歩美

私はこの高校生活で多くの経験をし、いろいろな力を身につけることができました。私は進学も就職もできる進路のことや、中学でもやっていたソフトボールを続けたいという思いがあり、土岐商に入学しました。私が土岐商に入学し、一番変わったと思うことは、物事に対する取り組み方です。どんなことにも目標を設定して、その目標を達成できるように努力してやることができました。

私はこの高校生活で一番部活動に力を入れて頑張ってきました。また土岐商に入学し、一番楽しみにしていたことが部活動でした。しかし、入学したばかりの頃のソフトボール部での練習は、他の部員よりも体力のない私にとってとても辛いものでした。またチームの成績も県大会一回戦負けというものでした。辞めたいと思うことは何度もありましたが、上手になりたい、もっと強くなりたいという気持ちがあったし、一緒に頑張っている仲間がいたことで毎日真剣に練習に取り組むことができました。しかし、どんなに頑張っても練習しても練習試合で良い結果を残せないことがありました。私はそれから練習試合の度にその日できなかったことを反省し、ノートに書くようにしました。そして次の練習試合までの目標を作って、それまでの練習に取り組んでいきました。その取り組み方にしてからは、目標がはっきりしていて、それまでよりもっと部活動に対する気持ちが強くなり、真剣に集中してできるようになりました。そして次の練習試合で、どれだけ力がついたか、何が足りないのかを確認し、また新たな目標を作って取り組むようにしました。この繰り返して私は技術面で大きく成長し、その成長を自分でも実感することができました。また、毎日の練習や練習試合では本番の試合を想定してやることで、本番でのプレッシャーに負けない精神力をつけることができました。そして私個人の實力だけでなく、この小さな目標の積み重ねがチームとしての県大会優勝という大きな目標となり、最終的にそれを実現し、中日本大会出場を決めることができたのだと思います。一年生の時の県大会一回戦負けから、次の年にベスト4、そして最後の年に優勝と、実績を伸ばすことができ、とても嬉しく思っています。中日本大会出場が決まった時は、どんなに辛い練習でも部員全員で乗り越え、頑張ってきて本当によかったと思ひ、大きな達成感を味わうことができました。また自分たちがここまで来ることができたのは、先生方の熱心な指導、両親や周りの方々の支え、応援して下さいました先輩方のおかげだと思ひ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。大会本番は、それまでに経験したことのない緊張感がありとても緊張しましたが、そのような大舞台でみんなとソフトボールができたことがとても嬉しかったです。そして何よりも部員のみならずやっつソフトボールは楽しく、一生心に残る3年間を過ごすことができました。先輩から後輩までみんなと過ごした多くの時間、多くの出来事はかけがえのない思い出です。

また部活動と同じように勉強にも力を入れてきました。私は進学か就職かもはっきり決めていなかったもので、どんな進路になっても有利になるように、一年生の頃から高い評定を目指して頑張ってきました。その勉強に対する取り組みも高校に入って変わったと思います。

それまでの自分は分からないところはすぐに諦めていましたが、高校に入ってから分からないところは分かるまで徹底的に勉強するようになりました。また授業では集中して話を聞き、その時間内に内容をしっかり理解できるようにしてきました。そして部活動でもやっていた目標設定を一つ一つの教科にして、その目標を達成できるように頑張ってきました。また、高い評定を目指すことと同時に、資格取得にも力を入れてきました。苦手なものもありましたが、受ける検定は必ず一発で合格するという強い気持ちを持って、悔いの残らないよう、検定前の勉強に集中して取り組みました。授業では学習しない検定もありましたが、自分から積極的に受験しました。その結果、初級システムアドミニストレータ試験、全商1級5種目を取得することができました。

私は部活動を通して多くの人に出会い、また多くの経験をしてきました。この経験、そしてそこから学んだことは、勉強の取り組みにも繋がり、また進学してからも生かしていけることだと思います。上手いかないこともあると思いますが、それに負けない精神力、忍耐力は部活動で身につけることができました。どんなに辛いことがあっても、この高校生活を思い出し、乗り越えていきたいと思ひます。そして、強い気持ちを持っていろいろなことに積極的に取り組み、一日一日を充実させていきたいです。また、この高校生活での経験を生かし、進学をしてからも様々な目標に向かって努力をし、自分を成長させていきたいと思ひます。